

# 龍谷大学 学修支援・教育開発センター通信

Ryukoku University  
Learning Support ·  
Educational Development  
Center Report



学修支援・教育開発センター | 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67  
Tel 075-645-2163 Fax 075-645-2190 <http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/fd/index.html>  
発行日: 2019年6月 編集・発行: 龍谷大学 学修支援・教育開発センター

十学部合同学生会主催

# 「第2回学生FDサロン」開催報告

2018年度第2回学生FDサロン

## 「龍大一受けたい授業～学生が求める学びの到達点～」

学生の正課環境の改善・向上を目的に活動する十学部合同学生会が学修支援・教育開発センターとの連携のもと、毎年学生FDサロンを開催しています。

2018年度2回目となる今回の学生FDサロンは、龍大一受けたい授業～学生が求める学びの到達点～というテーマを設定しました。瀬田学舎では10月3日(水)に学生交流会館、深草学舎では10月4日(木)に和顔館学生コモンズにおいて開催し、学生・教員・職員がグループに分かれ、意見交換を行いました。

※十学部合同学生会が中心となり企画・立案・運営する学生主体のFDサロン



FDフォーラム



FDサロン



学生FDサロン



学生FDサロン

2018, Number 02

CONTENTS

p03 十学部合同学生会主催  
「第2回学生FDサロン」開催報告

p04 第14回龍谷大学FDフォーラム2018開催報告  
「龍谷大学における学修者本位の教育への転換」  
～龍谷IP・龍谷GP事業による教育改革の事例報告

p06 FDサロン  
「高校現場のアクティブラーニング」開催報告  
「manaba courseを使用した授業展開」開催報告

p07 2018年度第2学期  
「学生による学期末の授業アンケート」実施報告

p07 2018年度ライティングサポートセンター実績報告

p08 2018年度学修支援教育開発センター事業内容報告

p11 新着図書を紹介



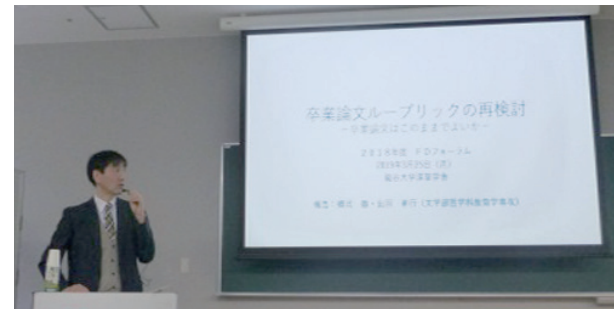
# 第14回 龍谷大学FDフォーラム 2018開催報告

2019年3月25日（月）に第14回龍谷大学FDフォーラムを開催しました。開催内容は「龍谷大学における学修者本位の教育への転換～龍谷IP・龍谷GP事業による教育改革の事例報告～」と題し、本学で実施している教育改革・教育改善に資する取組を選定し、支援するための事業（龍谷IP（Inventive Program）・龍谷GP（Good Practice））に選定されたものから、学修者本位の教育への転換をテーマにルーブリックやアクティブラーニングの取組で得た成果や課題を共有しました。

## 事例報告①

### 卒業論文ルーブリックの再検討 ～卒業論文はこれまでよいか～

出羽 孝行（文学部教務主任／准教授）



文学部の卒業論文ルーブリックについて、学生と教員に活用状況調査を行い、その結果を文学部FD研究会で取り上げたときの内容を報告。教員からの評価は高いが、学生への浸透度が低いことが判明したため、今後もルーブリックを継続的に使っていく必要があると説明がありました。

## 事例報告③

### グローバル人材育成を目指す ASEAN体感プログラム

～ベトナムおよびシンガポールの  
大学・企業をめぐる理工系スタディツアー～  
宮武 智弘（理工学部教授）



理工学部2年生対象のASEAN地域を巡るプログラムの活動を報告。参加学生が、提携大学および現地日系企業と共同でPBLを実施し、海外での活動ならではの様々な気づきを得られた様子や、実施前と後にアセスメントテストによる自己成長把握の仕組み、さらに外部の評価委員による評価についてなど評価指標についても紹介されました。

## 事例報告②

### 法学部版アクティブラーニング推進事業 ～出口を意識した教育改革に向けて～

牛尾 洋也（法学部教授）



本事業を契機に新設した「法政アクティブリサーチ」科目について、導入の背景・目的、取組事例等について報告。参加学生にとっては、深い学びに繋がるだけでなく、社会との繋がり・社会で活躍することを意識したプログラムとなっていることもあり、就職活動にも好影響を与えている様子が伝えられました。

## その他報告④

### 龍谷大学における教学IRの取組について

藤田 和弘  
（学修支援・教育開発センター長／理工学部教授）

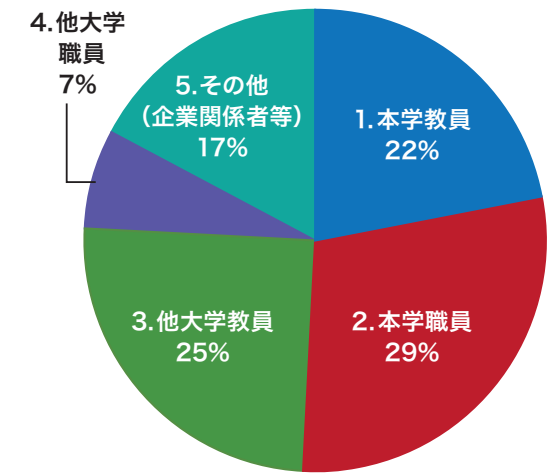


龍谷大学の教学IRについて、組織体制や大学IRコンソーシアム等のアセスメントテストについて、分析結果を交えて報告がありました。これらを踏まえ、専門人材の育成や教学IR用データの管理手法等が今後の課題であると締めくくられました。



（事例報告後の全体意見交換会）

【参加者内訳】



## 【参加者の声】(アンケートから)

### <本学教員>

・ 卒論の評価基準としてルーブリックを使うことの意義と、限界(悪い意味ではなくて)が分かりました。文学部でここまで合意形成されたこと自体、素晴らしいことだと思います。

### <他大学教員>

・ 現在、関心を持っている事項(ルーブリック、AL、PBL、PROGの活用)をそれぞれの事例報告で実例を詳しく知ることができ、期待以上に参考になりました。ありがとうございました。

・ 学生の教育内容の質的転換の実例について、報告いただきありがとうございます。学生が成長するのは大切ですが、教員の負担も大きくなると予想されます。この点について今後検討いただくと幸いです。

### <本学職員>

・ 中教審の2040年に向けた高等教育のグランドデザインでは、学びの質保証として、学修成果の見える化や、情報公開が求められているが、社会で求められる主体性や協調性、コミュニケーション能力は何をもって身に付いたと言えるのか、そもそも評価ができるものなのか分からず、そのヒントが得られればと思い参加しました。また「学修者本位の教育」とは何なのか、知りたいと思って参加しました。

各先生方が実体験を持って取り組まれていることを聞いたことは大変有意義な機会となりました。ありがとうございました。

## FDサロン「高校現場のアクティブラーニング」開催報告

2018年10月16日(火)に「高校現場ではどのような授業が行われているのか～京都府立西城陽高校のアクティブラーニング型授業の事例から～」と題し、FDサロンを開催しました。本サロンは、近年ますます高大接続の重要性が増し、高等学校と大学の一体的な改革が求められていることから、高等学校の教育現場とつなぐアクティブラーニング型の授業の実態を学ぶために行われました。

当日は、実際に高校の授業でアクティブラーニングが行われている西城陽高校の大川沙織先生をお招きし、実際にどのような授業をしているのか、具体的な授業実践方法についてお話をしました。



## FDサロン「manaba courseを使用した授業展開」開催報告

2018年12月12日(水)に本学で導入しているLMS (Learning Management System) のmanaba courseに関する講習会を行いました。manaba courseを使用した実際の授業展開を想定して、授業内での場面に応じて、manaba courseで使用する機能について、(株)朝日ネット (manaba course 開発業者) 担当者に説明してもらいました。

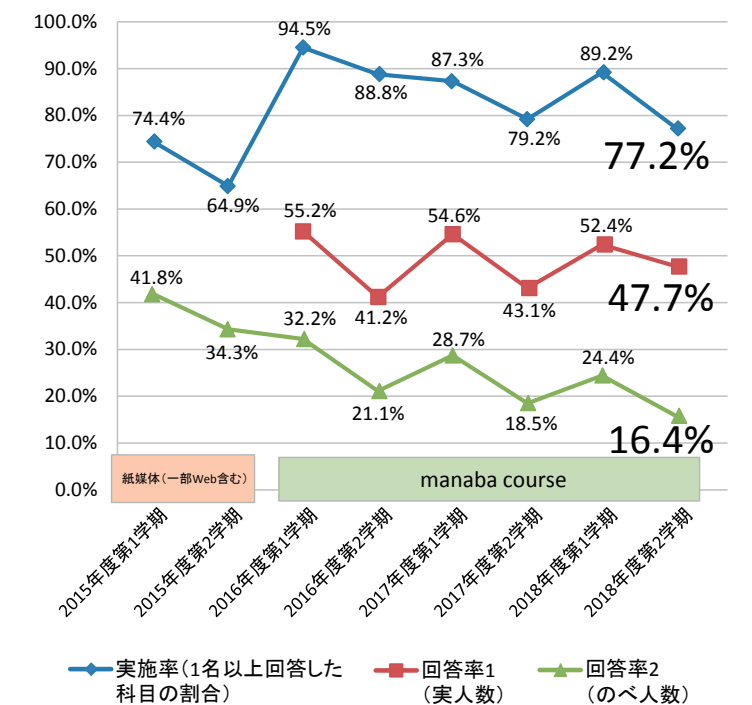


## 2018年度第2学期「学生による学期末の授業アンケート」実施報告

「学生による学期末の授業アンケート」は、2016年度からmanaba courseを活用した方法へ移行しました。3年目となる今年度の第2学期の実施率<sup>※1</sup>は77.2% (対前年度比2.0%減)、回答率<sup>※2</sup>は16.4% (対前年度比2.1%減)となりました。

学修支援・教育開発センター (教学企画部) では、2017年度に教学IRの定義<sup>※3</sup>を定め、教学IR機能の整備と、機動的な意思決定に資する分析を進めようとしています。「学生による学期末の授業アンケート」の結果についても解析をおこない、授業改善活動や学部等の組織的な教育改善活動に活用できるように支援していきます。

※1…回答科目 (1名以上の回答があった科目) 数 ÷ 対象科目数 × 100  
 ※2…回答者数 ÷ 受講登録者数 × 100  
 ※3…2017年度第4回学修支援・教育開発センター会議承認



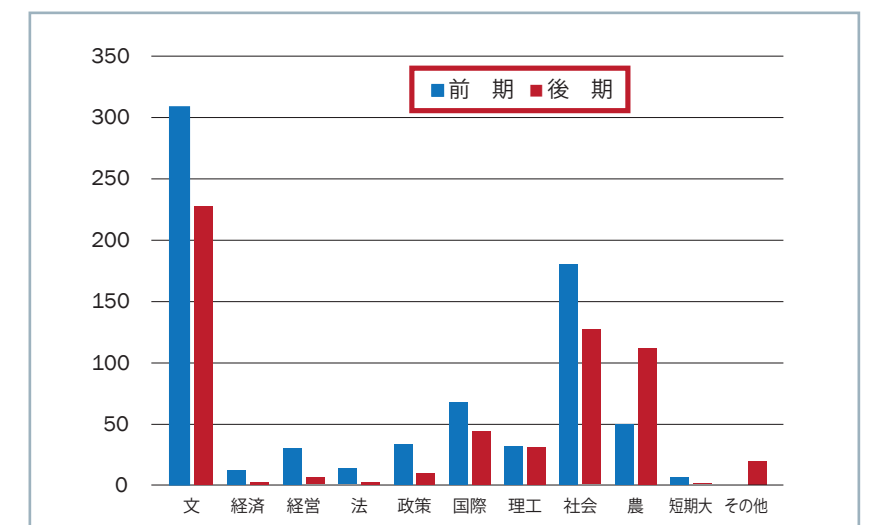
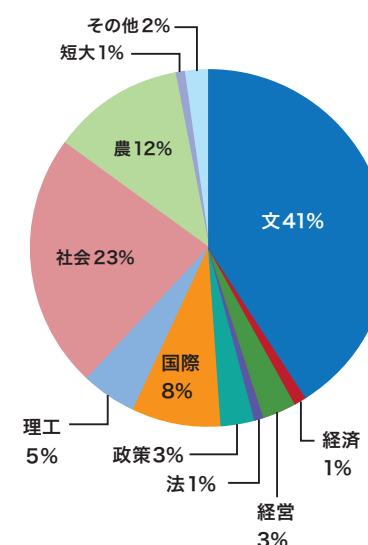
## 2018年度ライティングサポートセンター実績報告

今年度4月に開設したライティングサポートセンターでは、「論理的に考える能力を養い、それにとまなう表現の技術を高める。」「読み書き能力の向上にとどまらず、分析力を高める。」の2点を基本理念として、現場統括者のライティングスーパーバイザーのもと、約20名のライティングチューター (大学院生) が、本学学生のレポートや卒業論文などの作成にあたりライティングに関する相談に応じています。

2018年度の実績は以下のとおりです。

(単位:人)

	文	経済	経営	法	政策	国際	理工	社会	農	短期大	その他	合計
前期	308	12	31	14	34	68	32	180	49	7	0	735
後期	228	2	6	2	10	44	31	127	112	1	20	583
合計	536	14	37	16	44	112	63	307	161	8	20	1,318



# 2018年度学修支援・教育開発 センター事業内容報告

## 1. 教育開発・研究

### (1) 自己応募研究プロジェクト

教育改革を推進する一環として、次の7件の自己応募研究プロジェクトを推進した。  
また、研究成果の共有を目的として、昨年度に引き続き「自己応募研究プロジェクトポスター展示」を、3月26日から4月15日の期間に深草学舎及び瀬田学舎において実施した。

テーマ	代表者
初回の心理療法における治療関係構築に関する教材開発	吉川 悟 (文学部)
英語媒体の補助資料活用のための教材開発	島根 良枝 (経済学部)
ソーシャルデザインと創作アートを活用した「ものづくり型PBL」の実践と評価	神谷 祐介 (経済学部)
学生の内的動機付けを高める英語カリキュラム開発に向けた Needs Analysis	工藤 和也 (経済学部)
大人数授業時における学生自発型LIVE授業へ向けた manaba course の活用	西岡 久充 (経営学部)
Moodle機能を使っのチーム基盤型学習 (Team Based Learning/TBL) -応用編-	李 洙任 (経営学部)
寺院を拠点としたPBL型授業の開発 (通称: お寺 de PBL)	佐藤 龍子 (農学部)

### (2) 指定研究プロジェクト

2018年度指定研究プロジェクトについては、次の2件のプロジェクトを推進した。なお、指定研究プロジェクトの成果を共有するため、自己応募研究プロジェクトと同様にポスター展示を行った。

テーマ	代表者
eポートフォリオの導入および授業展開に関する調査	藤田 和弘 (理工学部/教学企画部長、学修支援・教育開発センター長)
機械学習を用いた教学データの分析	藤田 和弘 (理工学部/教学企画部長、学修支援・教育開発センター長)

## 2. 教育改善活動支援

### (1) 学生による学期初めの授業アンケート

授業を展開する上で重要な学期初めにおいて、各教員が必要に応じて実施できる授業アンケートが有用であることから、授業期間初期における授業改善 (学生へのフィードバック等含む) が可能となるよう、以下のとおり「学生による学期初めの授業アンケート」を実施した。

対象科目: 2018年度第1学期・第2学期全開講科目

#### ■第1学期実施状況(実施期間 4月9日~4月21日)

利用枚数	10,914 枚
------	----------

#### ■第2学期実施状況(実施期間 9月20日~10月3日)

利用枚数	3,611 枚
------	---------

### (2) 学生による学期半ばの授業アンケート

学期半ばにおいて、受講している学生の授業に関するニーズや要望等を把握し授業内容・方法等の見直し・改善を行うとともに、その結果を学生にフィードバックすることで学生の学習意欲の向上につなげることを目的として、「学生による学期半ばの授業アンケート」を実施した。

対象科目: 2018年度第1学期・第2学期全開講科目

#### ■第1学期実施状況(実施期間 5月29日~6月11日)

利用枚数	9,095 枚
------	---------

#### ■第2学期実施状況(実施期間 11月5日~11月15日)

利用枚数	6,414 枚
------	---------

### (3) 学生による学期末の授業アンケート

昨年度に引き続き「学生による学期末の授業アンケート」を実施した。

学期末の授業アンケートの実施方法については、2016年度よりこれまでの紙媒体 (一部Web含む) から、manaba course 上で実施する形へ全面移行した。アンケートの実施状況については以下のとおりである。

対象科目: 2018年度第1学期・第2学期開講の講義科目

※原則、講義科目は実施することとし、演習・実習等の科目や研究科科目については、各開講責任組織で判断し実施した。

#### ■第1学期実施状況(実施期間 2018年7月9日~8月6日)

対象科目数	3,084 科目	受講登録者数	161,602 人
実施科目数	2,751 科目	回答者数	39,475 人
実施率	89.2%	回答率	24.4%

※実施率 回答科目(1名以上の回答があった科目)数÷対象科目数×100  
※回答率 回答者数÷受講登録者数×100

#### ■第2学期実施状況(実施期間 2019年1月7日~2月2日)

対象科目数	2,953 科目	受講登録者数	150,984 人
実施科目数	2,281 科目	回答者数	24,809 人
実施率	77.2%	回答率	16.4%

※実施率 回答科目(1名以上の回答があった科目)数÷対象科目数×100  
※回答率 回答者数÷受講登録者数×100

### (4) 教学IR (Institutional Research) 機能の整備

本学における教学IRの定義に基づき、他大学とのベンチマーク比較や、学生の学修成果の可視化につなげるため、2017年度に加盟した大学IRコンソーシアムが実施する学生調査を、文・経済・理工・社会・国際学部で実施した。(昨年度は、理工学部と国際学部のみ実施)

また、経年伸長も測定できる様、学生のジェネリックスキル等を測定する外部アセスメントテストの導入について、キャリ

アセンターと共同で検討し、2019年度から3年次でも実施することが決定した。

#### <本学における教学IRの定義>

「教学IRとは、教学における内部質保証体制の確立及び強化を目的として、教育全般に関する情報収集・提供及びデータ分析、並びに教学政策の策定及びその支援を行う取り組みのことをいう」

## 3. 教育活動交流・研修

### (1) 専任教育職員新任者就任時研修会

昨年度に引き続き、龍谷大学に初めて着任した教員を対象に、龍谷大学の教育理念をはじめ、本学の教育研究活動支援サービスの利用方法等について研修を実施した。

開催日	研修名	主催/講師
4月1日、2日	2018年度 新任者就任時研修	吉岡 祥充 (副学長) 藤田 和弘 (学修支援・教育開発センター長) 深尾 昌峰 (REC 事務部長) 小室 昌志 (研究部課長)

### (2) FDフォーラム

「第14回龍谷大学FDフォーラム2018」として、龍谷IP・龍谷GPに選定されたものから、学修者本意の教育への転換をテーマにルーブリックやアクティブラーニングの取組で得た成果や課題を共有することを目的に開催した。

開催日	テーマ	内容
2019年 3月25日	龍谷大学における学修者本意の教育への転換 ~龍谷IP・龍谷GP事業による教育改革の事例報告~	龍谷IP・龍谷GPに選定されたものから、学修者本意の教育への転換をテーマにルーブリックやアクティブラーニングの取組の紹介

### (3) FDサロン

学内教職員のFD活動に関する啓発と交流を図るため、以下のとおりFDサロンおよび勉強会を実施した。  
また、学友会組織である十学部合同学生会と連携し、深草・瀬田学舎で2回ずつ学生FDサロンを開催した。

開催日	テーマ	主催/講師
4月20日	<FDサロン> 「ActiveLearning and Assessing Teamwork」(大学教育におけるアクティブラーニング及びルーブリックによるチームワークの評価) ~カナダ・クインズ大学の事例から~	Andy LEGER氏 (カナダ・クインズ大学 Centre for Teaching and Learning School of Rehabilitation Therapy 准教授、東北大学高度教養教育・学生支援機構客員教授)
<瀬田>7月4日 <深草>7月5日	<学生FDサロン> 龍大受けたい授業~理想の授業の受け方を考えよう~	十学部合同学生会
<瀬田>10月3日 <深草>10月4日	<学生FDサロン> 龍大受けたい授業~学生が求める学びの到達点~	十学部合同学生会
10月16日	<FDサロン> 「高校現場ではどのような授業が行われているのか」 ~京都府立西城陽高校のアクティブラーニング型授業の事例から~	大川 沙織氏 (京都府立西城陽高等学校教諭・社会科)
12月12日	manaba course 講習会 「manaba course を使用した授業展開」 ~授業でmanabaを使う人のために~	(株)朝日ネット (manaba course 開発業者) 担当者

### (4) 公開授業

自己応募研究プロジェクトの中間報告として、以下のとおり公開授業や講評会を実施した。

開催日	代表者	テーマ
9月27日	吉川 悟 (文学部)	初回の心理療法における治療関係構築に関する教材開発
10月22日	西岡 久充 (経営学部)	大人数授業時における学生自発型LIVE授業へ向けた manaba course の活用
10月23日	李 洙任 (経営学部)	Moodle機能を使っのチーム基盤型学習 (Team Based Learning/TBL) -応用編-
10月31日	佐藤 龍子 (農学部)	寺院を拠点としたPBL型授業の開発 (通称: お寺 de PBL)
12月7日	工藤 和也 (経済学部)	「学生の内的動機付けを高める英語カリキュラム開発に向けた Need Analysis」のアンケート結果について
12月19日	神谷 祐介 (経済学部)	ものづくり型PBLの実践例と教訓
12月20日	島根 良枝 (経済学部)	英語媒体の補助資料を活用するための教材開発の例

